

[会報リサイクルデザイン]

発行日：1994年10月15日

編集・発行

横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒220 横浜西区平沼1-33-1

東洋建物横浜ビル5階

TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

94
第2号

RECYCLE Design



横浜市資源リサイクル事業協同組合

九月定例理事会

九月十四日(水)開催

まず古紙委員会の報告は、七月二十三日、古紙対策検討委員会へ出席。

八月二日、行政センターへ平成七年度の受託料金増額要望書を提出しました。

八月二十五日、市のリサイクル推進体制の品目別委員会に出席し、オフィス古紙について様々な議論を取り交わしたそうです。

金属委員会も七、八月は粗大ゴミの継続受託要望書提出で大変だったそうです。

また、現作業場の安全性確保を要請していたものが、年度内には実施されることになりました。

事業研究委員会からは、自動車貼付用ステッカー(写真参照)が出来上り、組合員一社一枚無料配布され、二枚目からは、一枚につき千円で希望者に配布されま

す。但し、手渡して配送はしないとのこと。

また七、八月のアルミ缶回収事業は、この夏の記録的な猛暑で、回収量が昨年の約二倍となりました。このことは、日経新聞に掲載されたそうです。

次に、平成七年度横浜市予算へ当組合の要望書が、民社党・社会党・自民党・公明党・神奈川ネットワーク事務局・横浜市環境事業局に提出されました。

以前から作成していた出資金証券が出来上りました。近いうちに、各支部長を通じて支部会等で組合員の皆さんに直接手渡しされる予定です。

最後に組合新規加入者の紹介。

有限会社 佐伯政吉商店
佐伯 太刀男

故紙センター協和

久保 照彦

の二社です。これで現在の組合員数は一〇九名になりました。

以上



これが自動車貼付用のステッカーです。タテ95ミリ、ヨコ39・6ミリ。



回収したものはどうなるの？

アルミ缶編



現在横浜市内21のスーパー（合計105店舗）にアルミ缶を2つ入れると1円戻る回収機があります。

みなさんは、このアルミ缶がこれから先どうなるか御存知ですか？今回はスーパーから回収されたアルミ缶が、どうなるのかみてみましょう。

まず、回収機にたまつたアルミ缶は週に1回（多いところは週2回）リサイクル組合の組合員である回収業者さんが、引取りにきます。そして業者さんはアルミ缶を海老名にある『株新

菱アルミ罐回収セ

ンターへ運んで

いきます。『新菱

アルミ』は親会

社である『三菱マ

テリアル㈱』がア

ルミ缶を作ってい

て、作りつばなし

ではなく後始末も

しよう！というこ

とで昭和50年頃か

ら20年近く回収事

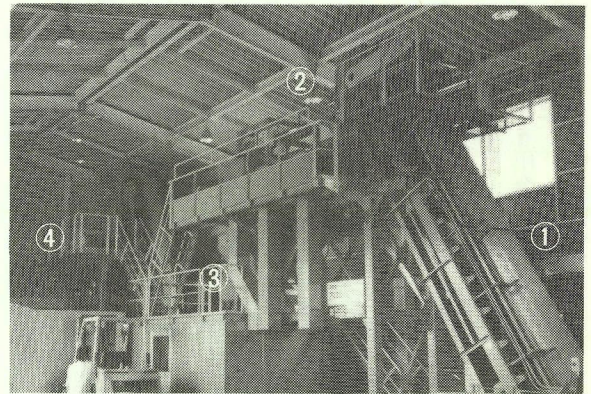
業をしているこ

ろなのです。

さて、新菱アル

ミに着いたアルミ

缶は、車から降ろ



新菱アルミではここまでで、これから先は静岡にある大手金属㈱に持つて行つて、缶についている色を落としその後缶は溶かされ、またアルミ缶として生まれ出てくるという仕組みになっています。

アルミ缶関係でもう1つ、よく組合の事務所に缶のプルタブをたくさん集めると車いすがもらえるというので集めたのですが…という電話を受けることがあります。

そこで、『株新菱アルミ罐回収センター』の工場長山本さんに話を聞いてみたところ「プルタブを集めるより缶を集めてほしい。プルタブは缶の中に入れてくれればいい」というお答えでした。

され、ベルトコンベア上にあげられ（写真①）、振動させて土砂を篩い落とし、マグネットでスチール缶をわけろ。（写真②）アルミ缶は一旦下へおりて、圧縮され小さく切られる。（写真③）そしてまたベルトコンベアで上にあげ再び圧縮され、また細かく切られ、最後にボックスに詰められる。（写真④）



オフィス古紙共同回収事業

第1回

会員企業訪問

(株)日能研



小倉 万里さん

古田 進さん

リサイクル組合では、新横浜と横浜駅西口に、オフィス古紙共同回収事業というプロジェクトがあります。会員企業の方に実際の回収現場はどうなっているのか、お話を伺ってみました。第1回目を新横浜にある進学塾で有名な(株)日能研に聞いてみました。

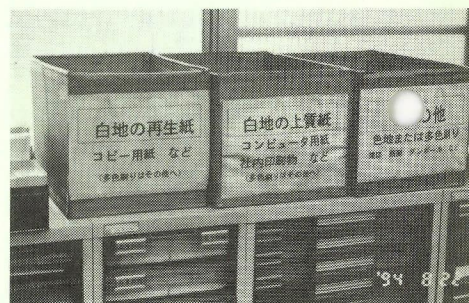
積極的にリサイクルに取り組んでいこう！

このプロジェクトに参加しようと思ったのは、一つはゴミの回収について事業

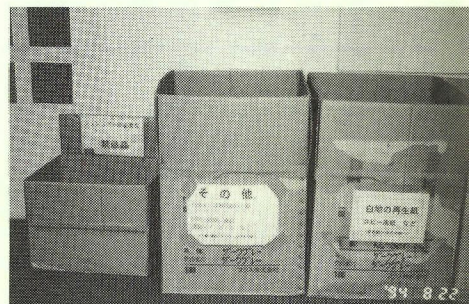
者負担で出していくということが横浜市として打ち出されているので、そういった際の仕組み作りということで出来るだけ早い段階からやっていけば、間際になつてやるよりスムーズにできるということ。もう一つは企業としての社会貢献活動ということ、使えばか

りではなく使ったものを一つの資源としてリサイクルするといった社会貢献活動の為ですね。企業としての特質で進学塾なので、どうしても紙媒体が主なものになりますから、当然大量のものが出るわけで、前に言ったことから積極的にリサイクルに取り組んでいこうということです。

分別に関しては最初はかなり心配したんです。スムーズにどれだけ社員の皆さんに受け入れてもらえるか。実際にやってみて、ここに来てようやく習慣づいてきたかなという気がします。あ



各部屋にこのような回収BOXが置いてあります。



回収BOXにたまったものは1階に運ばれ、ここで一杯になったら、別館の方へ運ばれます。

はありません。やはり早く古紙相場が元に戻ると思います。

日能研さんは分別もわりと徹底していて、教材等も再生紙を使つたりと、リサイクルに関しては積極的に行動していると思いました。これからもずっと続けて欲しいですね。

8月回収実績
参加企業 10社
10,620kg
でした。

リサイクルに伴う買取価格表 (平成6年9月現在)

分 類	品 名	金 額
古 紙 類	新 聞	1kg 0～1円
	雑 誌	1kg -3～0円
	ダンボール	1kg -1～0円
衣 類 く す		1kg 0～1円
*アルミ缶のみ 選別した場合	アル ミ 缶	1kg 5～15円

循環型リサイクル社会構築に寄与していく為に、資源回収業者もこの不況を乗り越えて行かねばなりません。業者同志協調し、過当競争を回避していく為、標準価格を設定し、毎月1回見直しをしております。各回収実務団体様には、上記価格での取引をお願いしております。

8月24日に、当組合の古紙委員長である(有)大興資源取締役小塚敏文さんが横浜市立大学の古紙リサイクル研究会・ヒアリング調査で集団回収等の流通システムについて説明し、質疑応答されました。

出席者は、同大学商学部教授、助教授、経済研究所講師、都市計画局、環境事業局総務部、㈱オストランド研究員の方々。予め10の質問が小塚委員

これから毎月組合員を紹介するコーナー。
第1回目はゴルフ大好きの秋元副理事長です。

組合員紹介 vol.1

秋元金属㈱
秋元康男さん
神奈川区羽沢町765
TEL.383-2811



ル、アルミサッシetc…。集められたアルミは、自動車のエンジンのミツシヨン、建材用アルミ、アルミ板に生れ変わるそうです。この業界で仕事をしようと思つた理由を聞いてみたところ「日本のアルミ生産量は年間2万トンで、国内消費量の0.5%しかなく、殆ど輸入に頼っている中で、一度使つたものを集め、再びアルミに戻すということ

は、資源のない国にとつては非常に重要な仕事だと思ひます。又エネルギーの削減、地球環境に少しでも役立てればと思ひ、この仕事をしています。」というお答えでした。

この業界に入る前は、サラリーマンをしていたそうですが、今の仕事の方が自分にピッタリなのは……。



リサイクル型都市横浜をデザインする人 リサイクル人紹介

市議員(金沢区)

お ばた まさ お
小 幡 正 雄

自然と共生する街づくりを目指して、横浜市のしんがりゴミ処理施設、金沢工場の環境アクセスとリサイクルコミュニケーションセンターの整備に向けて奮闘中。若作りに見えても議員生活16年のベテラン。現在大学教育委員会委員、横浜市監査委員。

